

2017年度(平成29年度) 卒業論文執筆要領

国際社会コミュニケーション学科

卒業論文の執筆にあたっては、以下の執筆要項・体裁をよく読み、これに従ってください。明らかに執筆要領の指示を無視した卒業論文が提出された場合には、大幅な減点がなされたり、卒業論文の成績審査の対象から外れたり、大きな不利益が生じる場合があります。

I 執筆要項

1. 原則として、A4・ワープロ原稿で提出すること。表記は、日本語・英語いずれでも可とする（その他の言語での執筆を希望する場合には指導教員に相談すること）。
2. 執筆枚数は、日本語使用の場合、400字詰原稿用紙に換算して40枚以上（16000字以上）とする。欧文の場合は、A4用紙で20-30枚（5000語-6000語）程度とする。ただし上限は設けない。
3. 日本語の場合、1ページの字数は1200字（40字×30行）、余白は上下左右いずれも30mmとし、行間は詰めすぎないようにする。欧文の場合、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイント、1ページの行数は20行とし、余白は上下左右いずれも30mmとすること。

なお、手書きの場合には、A4の400字詰原稿用紙を使用すること。

4. 原稿は、縦書き・横書きのいずれも可。
5. 引用した資料および参考にした資料については、必ず本文中または注において出典を表示し、また論文末尾の参考文献表に詳細な文献情報を示すこと。また、出典と参考文献の示し方は、分野によって異なるため、必ず指導教員の指示に従うこと。

なお、資料の利用について、詳しくは以下を参照すること。

- ・日本語の場合：「剽窃の防止と資料の利用についての手引き」
- ・欧文の場合：“Dept. of International Studies Undergraduate English Thesis Specifications”

6. その他、詳細については、指導教員の指示を受けること。

II 体裁

1. 卒業論文は紐で綴じること。横書きの場合は左綴じ、縦書きの場合は右綴じとする。
2. 表紙は、黒色・A4のものを、生協などで購入すること。
3. 表紙の表側には、論文タイトル、大学・学部・学科名、学籍番号、氏名、提出日（20XX年〇月〇日提出）を記すこと。
4. 表紙の裏側には、「卒業論文提出票」を貼り付けること。なお、「提出票」は、学生サービスセンターで事前に受け取り、必要事項を記入すること。
5. 中表紙をつけること（中表紙の表記も、表紙と同様とする）。

6. 目次を付けること。
7. なお、これらの体裁について、本執筆要領末尾の表紙サンプルおよび国際社会事務室の卒業論文サンプルを参考にすること。また欧文の場合の表紙および目次の形式については、“Dept. of International Studies Undergraduate English Thesis Specifications”を参照すること。

Ⅲ 提出要領

1. 卒業論文の題目については指導教員と十分に相談し、定められた期日までに、仮題目を指導教員に提出すること。
2. 卒業論文は、学生サービスセンター（共通教育棟1号館2階）学務課専門教育グループ人文学部担当の窓口提出すること。なお、その際、同じく人文学部担当の窓口にて、「卒業論文審査申請票」、「卒業論文提出票」、および「卒業論文デジタル化についての承諾書」を受け取り、必要事項を記入の上、卒業論文と併せて提出すること。
3. 提出締切は、2018（平成30）年1月10日（水）17時（時間厳守）。なお、秋期卒業希望者の提出締切は2017（平成29）年7月10日（月）17時（時間厳守）。

Ⅳ 卒業論文要旨

卒業論文の他に「卒業論文要旨」を提出すること。「卒業論文要旨」の提出締切は2018（平成30）年1月15日（月）。秋期卒業希望者の場合の締切は2017（平成29）年7月13日（木）。提出先は指導教員とする。なお、「卒業論文要旨」の書式、提出方法等は別紙に定める。

Ⅴ 指導教員と審査

1. 指導教員は1名とする。複数指導や口頭試問の実施については、指導教員の判断に任せる。
2. 審査は、指導教員が主査となり、副査1名とともに進行。

Ⅵ 卒業論文発表会

卒業論文提出後、各指導教員のもとで卒業論文発表会を行う。発表会の形態や実施時間等については、指導教員の判断に任せる。

Ⅶ 成績評価

卒業論文の成績評価は、学科会議で行う。

Ⅷ 卒業論文の保管について

提出された卒業論文については、原則として本学科にてデジタル・データ化して保管する。デジタル・データの作成の可否については、学生各自で判断の上、「学位論文の取り扱いについて」に記入し、卒業論文提出時に併せて学生サービスセンターに提出すること。なお、デジタル・データ化されたものについては、卒業論文を返却する。

「幸福度」とは何か

— 高知県民の生活から「幸福度調査」を問い直す —

コメント [01]: 副題を付ける場合は全角ダッシュ「—」で括ること

高知大学 人文学部
国際社会コミュニケーション学科

B○○○E○○○

コメント [02]: 学籍番号を記載

○○ ○○

コメント [03]: 氏名を記載
姓と名の間に全角スペースを入れる

20XX 年○月○日提出

2017年度(平成29年度)卒業論文の要旨の提出について

国際社会コミュニケーション学科

1. 書式

日本語の場合、フォントは論文タイトル・副題はMSゴシック、本文はMS明朝、フォントサイズは10.5ポイント、1ページの字数は1200字(40字×30行)、余白は上下左右いずれも30mmとし、行間は詰めすぎないようにする。欧文の場合、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイント、1ページの行数は30行とすること。

日本語、外国語、いずれの場合も、上記書式のもとでA4用紙一枚に必ずおさめること。なお、一行目にタイトル(センタリング)、一行空けて三行目に学籍番号と氏名(右寄せ)、そして一行空けて本文を書き始めること。なお、副題がある場合は、二行目に副題を書き、一行空けずに三行目に学籍番号と氏名を書くこと。

2. 使用言語

日本語。卒業論文を外国語で執筆した場合も、要旨は必ず日本語で書くこと(ただし、論文タイトルについては、実際に執筆した外国語のタイトルで記載すること)。また、その場合、該当する外国語で書いた要旨をあわせて提出することもできる。

3. 提出先

指導教員

4. 提出方法

上述の書式スタイルに従って作成した卒業論文要旨(ワープロ原稿)のプリントアウト(A4原稿)したものおよびデジタルファイルを提出すること。

5. 提出締切

2018(平成30)年1月15日(月)

秋季卒業希望者は、2017(平成29)年7月13日(木)

6. その他

この卒業論文要旨を提出しない場合は、卒業論文の成績審査の対象から外れる場合がある。また、卒業論文要旨提出後に必要な原稿修正を依頼する場合もある。

留学生の日本地域社会における役割について
高知大学朝倉キャンパス所属留学生を対象に—

1行目に題目を。
センタリング。MS ゴシック

□□空行□□blank line□□

学籍番号と氏名は3行目に右寄せで
日本語は MS 明朝。

B111E000X 国際 花子

2行目には副題を。なければ空行。
副題は全角ダッシュ(“—”)で括る。
センタリング、MS ゴシック。
なお英文タイトルの場合は、1行目の
主題の末尾に「:」(コロン)を付して改
行し、2行目に副題を書くこと。

4行目は空行

本文は5行目から。1文
字下げて書きはじめるこ
と。 MS 明朝

明らかにするために
籍している留学生 84 名
査を行なった。同時に、
留学生の地域社会におけ
るために任意に選択し

本稿は、留学生の地域社会における
所属の在日 学生と高知市内に
方について調査 分析を行い、留
である。
2 年 11 月から 12 月にかけて
に於て、留学生活及び地域社会
留学 にかかわりがある高知市に
アンケート調査を
取り調査を
アンケート調査の結果、地域社会に積極的に参加している人がわずか 7% した。また、87.8%の留学生が留学の意味は学内だけの勉強だとは思
っておらず、89.3%が留学先の地域を知ることは留学の一つの意味であると考えていた。
そして、84.8%が地域社会に入る必要があると答え、留学の意味を広く捉えていることも
わかった。さらに、地域社会に参加しない理由については、「時間がない」「経済的に厳しい」「参加費が高い」という理由が挙げられた。

このように、留学生は地域社会に参加したいと考えているにもかかわらず、実際は「時間がない」、「経済的に厳しい」ため実現できていない。それは、在日留学生の 9 割が私費
留学生でアルバイトや勉強に追われる生活をしているからである。私費留学生の生活環境
を変えない限り、両国間の「懸け橋」である在日留学生が本国と日本の情報を正しく伝える
「情報伝達者」としての役割が果たせないことになるのである。

この状況を改善するためには、留学生・地域社会・日本政府の意識の変革が必要となる。
まず、留学生自身は積極的に地域社会に参加するように意識の転換の上で、行動に表すの
が大事である。次に、留学生を受け入れている大学側は留学生の厳しい経済状況に対する
適切なサポートが求められる。そして、日本政府は国費留学生よりも私費留学生の立場に
立った留学生受け入れ政策を考えることが必要である。地域社会は留学生を人的資源とし
て、様々な分野で活用できるように心がけることが求められる。

Dept. of International Studies Undergraduate English Thesis Specifications

General thesis specifications:

For a thesis written in English, the Department requires students to write 5000-6000 words (approximately 20-30 pages including graphs, tables, appendices and reference list). There is no upper limit. The thesis should be divided into chapters, each of which presents different aspects of your research. Most students write three or four chapters depending on the topic and organization of the thesis. Each of these chapters is further broken down into sub-sections. Chapters are usually 5-8 pages. A thesis should have an Introduction and Conclusion of 1-3 pages each. If you wish to present your thesis in an alternative style, please consult your supervising professor.

Thesis layout specifications:

Students should follow these layout guidelines so that we maintain consistency and present our work in a professional manner:

- Use Times New Roman font, size 12
- Leave margins of 30 mm at the top and bottom, and on both sides of the text
- Justify both the left and right margins
- 20 lines per page
- Indent (tab) new paragraphs except those following a heading, sub-section or quote
- Chapter titles, heading and sub-sections should be in bold, size 14 font
- Begin new chapters on new pages (insert page break)
- No sub-section, subheadings or table headings left hanging at the bottom of a page
- Footnotes are preferable to endnotes. Use only when necessary
- Graphs and tables should be in the body of the text, not at the end
- Follow the APA referencing format (recommended) for in-text referencing and the reference list (see *APA Publication Manual* in 3rd floor Dept. office, or consult your supervising professor)
- See the sample template for title page layout
- Table of Contents (follow the sample template)

Department of International Studies Referencing Style (Undergraduate Thesis)

Students submitting an undergraduate thesis to Kochi University's Department of International Studies are responsible for including an academically recognized reference style (reference list and in-text referencing). For English theses, students are encouraged to use the guidelines of the *Publication Manual of the American Psychological Association* (6th Ed.).

To assist you in referencing your thesis, the following examples are provided.

I. Reference List

Journal article:

Field, J. (1998). Skills and strategies: Towards a new methodology for listening. *ELT Journal*, 52(2), 110-118.

Book:

Corbett, J. (2003). *An intercultural approach to English language teaching*. Clevedon: Multilingual Matters.

Chapter in an edited volume:

Ochs, E. (1996). Linguistic resources for socializing humanity. In J. J. Gumperz & S. L. Levinson (Eds.), *Rethinking linguistic relativity* (pp. 407-437). Cambridge: Cambridge University Press.

Internet source:

Kachru, B.B. (1996). Norms, models and identities. *The Language Teacher*, 20(10). Retrieved from <http://jalt-publications.org/tlt/files/96/oct/index.html>

Conference Proceedings publication:

Cates, K. (1998). Teaching for a better world: Global issues and language education. In J. Katchen & Y. Liung (Eds.), *The Proceedings of the Seventh International Symposium on English Teaching* (pp. 35-46). Taiwan: Crane.

Newspaper article:

Schwartz, J. (1993, September 30). Obesity affects economic, social status. *The Washington Post*, pp. A1, A4.

Online newspaper article:

Brody, J. E. (2007, December 11). Mental reserves keep brain agile. *The New York Times*. Retrieved from <http://www.nytimes.com>

Japanese-language source:

Hiromori, T. (2006). *Gaikokugo gakusyuuusya no doukizuke wo takameru riron to jissen* [Theories and practices for enhancing foreign language learners' motivation] Tokyo: Taga Shuppan.

Government report:

MEXT (2009). *Koutougakko gakushu shido yoryo* [Course of study for senior high schools]. Kyoto: Higashiyama Shobo.

**For the reference list, there are many other citation examples but these are the most common examples used in a typical undergraduate thesis.*

*** All sources in the reference list are listed in alphabetical order by family name.*

II. In-text Referencing

Using citations in the body of your thesis is necessary to briefly identify the source for the reader. The in-text citation enables the reader to locate the source in the more detailed reference list at the end of the thesis. The samples of in-text referencing below follow the style of the *Publication Manual of the American Psychological Association (6th Ed.)*. In addition, supervising professors will provide detailed in-text referencing guidance during the drafting process.

Early onset results in a more persistent and severe course (Kessler, 2003).

The teaching procedure is strongly influenced by Bennett's (1998) Developmental Model of Intercultural Sensitivity.

As Guilherme (2002) has noted, the model fails to adequately deal with "difference-within-difference" (p. 136).

Critical incidents are defined in Chen and Starosta (1998) as case studies based on real-life experiences with people from other cultures which "depict a controversy or source of conflict that reflects cultural values or other aspects of a culture" (p. 272).

Newspapers are often used in reading classes in order to develop reading skills and expand vocabulary knowledge (Hwang & Nation, 1989).

Use of a critical incidents methodology for teaching intercultural communication can create an environment in which learners "gain insight into cultural assumptions which underlie the perception of contextual and situational factors as they inform linguistic behaviour" (Meier, 1997, p. 25).

A study by Naotsuka, Sakamoto, et al (1981) attempted to explain cultural differences in apology styles between the two countries in terms of mutuality.

As current Japanese elementary school teachers lack experience in teaching English (Hogan, 2004; Kelly, 2002; Murphey, Asaoka, & Sekiguchi, 2004; Takagaki, 2003) and there are not enough native-speaking teachers available, some elementary schools have requested assistance from local universities.

**For more detailed information, please consult Chapters 6 & 7 of the APA Publication Manual available in the 3rd floor Department office (English and Japanese versions are available).*

Table of Contents (sample)

Introduction	1
Chapter 1: Rationale behind the system	
1.1: Japanese rationale for the use of “comfort women”	4
1.2: Reasons of Japanese preference for Korean women	7
Chapter 2: Women’s fate as “comfort women”	
2.1: Recruitment method of women by the Japanese military	9
2.2: Ms. Pak Oksun’s testimony	10
2.3: Systems and regulations in “comfort stations”	10
2.4: Life as “comfort women”	12
Chapter 3: Fight for justice	
3.1: Women’s fate after the war	14
3.2: Factors behind the half-century ignorance about the issue	16
3.3: Key events for the emergence of awareness about the issue	17
Chapter 4: Japanese government’s response to the women’s demands	
4.1: Response of the Japanese government	19
4.2: The establishment of the “Asian Women’s Fund”	22
Chapter 5: Japanese people’s reactions to the issue	
5.1: Public opinion in Japan	25
5.2: Views of Japanese media	25
5.3: Nationalist politician’s views about the issue	26
5.4: Japanese history textbook issue	26
5.5: Local movement in Japan	28
5.6: International movement	28
Conclusion	30
References	32

Title Page (sample)

**Rethinking the Japanese High School Education System:
A Comparison of American and Japanese Education**

**A thesis presented to
The Department of International Studies
Faculty of Humanities and Economics
Kochi University**

**In partial fulfillment
of the requirement for
the Degree of Bachelor of Arts**

**Name (B000E000X)
January 10th, 2018**